

第6回地域のまち・絆づくり検討委員会

1. 開催日時 平成27年3月17日（火） 13:30～15:00
2. 開催場所 福岡市交通局4階 第1・2会議室
- 3・出席委員 【出席委員18名】
青木委員、石川委員、石森委員、大島委員、木下委員、日下部委員、
楠下委員、角委員、田代(倫)委員、田代(芳)委員、十時委員、
長柄委員、西頭委員、日高委員、平山委員、森住委員、山口委員、
結城委員
4. 傍聴者 1名
5. 議題 (1)第5回検討委員会における主な委員意見等
(2)中間とりまとめ(案)について
(3)さらに検討が必要な事項・取組み(案)
6. 議事概要

議題「第5回検討委員会における主な意見等」について事務局より説明

(特に意見なし)

議題「中間とりまとめ(案)」について事務局より説明

【委員長】 これは中間とりまとめとしてまとめていくものですので、より肉厚にしていただければと思う。

【委員】 公民館という言葉が出てきていないが、公民館の役割も重要だろうと自分は思っている。これは何か意図があったのか。公民館活動との連携というのは、この中に記載されるのか。

【事務局】 確かに今まで、公民館そのものは議論という形で出てきていませんが、公民館は一番地域に近い行政機関です。公民館には、社会教育施設とコミュニティ支援とい

う、大きな二つの役割がありますが、校区に一つずつ公民館があるのが福岡市の特色で、これはコミュニティにも有効な機関であり、当然、コミュニティの支援に関して重要な役割を持つと思っていますが、確かに、この中で公民館の役割を具体的に定めていません。

【委員】 まだ中間だが、最終的にはどこかで触れてほしい。前提として公民館との連携があるイメージで議論しているものだと思うので、それがないと違和感がある。最後の報告の中で頭に入れておいていただきたい。

【委員長】 公民館へ期待が持てるのではないかと思う。感想などはないでしょうか。事務局のほうでも後程検討していただくということで。

【委員】 公民館の位置づけについてだが、公民館に長くかかわってきて、行政の施設であって、生涯学習の場、趣味を生かしたサークルの方たちが6割、7割を占めていて、残りの部分で、地域の住民・各団体等が会議などに使っている。行政の主たる施設として、公民館が中心になって自主的な活動をできるかという、今のままでは難しいと思う。自治協議会は現在、どちらかというと公民館と仲よく活動している。だから、公民館がどれだけのものを自主的に地域に対してできるかという、想像ができない。

公民館と自治協議会の違いをはっきりさせるといって、どういうふうに出していったらいいかわからない。今のままでも仲よくやっているところもあり、他の地域のこともわからないので、公民館と自治協議会の役割をはっきりしたほうがいいのかと感じた。

【委員】 はっきりするという意味ではなく、役割分担まで行かなくても側面支援とか両輪という話があるわけだから、全体を一緒に動かすというイメージを持っておいた方がいいだろうということ。

【委員】 それは必要。自治協議会と公民館は地域の両輪だといつも言われるが、まとめの中に、公民館が出てこないといけないと思う。

【委員】 今、NPOと公民館が共働で事業をやっているんで、その結果を踏まえて、最終的な報告書の中で触れればよいと思っている。正直言うと、一番センシティブなところ

ろであり、わかりにくいところでもあるが、私は福岡市のメリットだと思っている。だから、それをうまく表現できればいいという意味。

【事務局】 確かに、これまで公民館に関する質問、意見がピンポイントでなかったの
で、取りまとめという形では表に見えてきていません。福岡市のコミュニティの前提条件
として、全校区に一つ公民館があり、自治協議会と一緒に地域に深くかかわっているとい
う現状はあると思います。ですから、公民館のことについて、地域の現状と課題という最
初の部分等に入れさせていただければと思っています。次の資料3「さらに検討が必要な
事項・取り組み（案）」のところでもまた、議題という形または、一つの項目として取り
上げていくということもあると思っています。

現在でも、公民館は継続的な人材の発掘・育成や、つつみカフェのような交流の場づく
りにも活用されているので、一体的な取り組みの中に公民館の活用というのは十分入っ
てくるとしています。公民館については、自治協や自治会・町内会と同じように重要な役
割を持っていると私たちも思っていますので、そういう表現で記載できればと思っていま
す。

【委員】 公民館には主催事業として、いろいろ事業展開をしているが、それはどこの
公民館でも市のほうでテーマを設定し、同じような取り組みをしている。その中にあつ
ても、地域の特性を生かしたそれなりの活動がある。

公民館の現状を見ると、ほとんどが地域とうまくいっており、うまくいっていない地域
もあるかもしれないが、公民館にかなりの負担がかかってきている事実がある。もっと余
裕を持って、いろいろな形で地域をサポートしていきたい。

それで、公民館も146あり、全部の意見を吸い上げてはいないが、公民館自身も非常
に模索している。というのは、ずっと生涯教育で進めていた事業が、平成16年以降、コ
ミュニティ部分の負担がかなり多くなって、どんどんそのウエイトが高まってきている。
その中で公民館はどうあるべきか公民館自身も非常に悩んでいるという現状がある。

今ちょうど私たちも、28年度のテーマとして考えていこうと思っているところである。

この自治協議会制度のあるべき姿を検討いただいている中で、いずれにしろ、今までは
自治協議会中心でしたけれども、自治協議会と公民館が一体となった形で進めていく上
では、公民館についても記載してほしいと思っている。

【事務局】 やはり、1つの地域コミュニティの運営基盤の強化というと、公民館に役割があり、ここに公民館という部分を少し入れさせていただければと思っています。

あとは、それぞれの具体的な取り組みの中で、先ほどのカフェなどの交流の場という形で公民館の活用など、具体的な公民館の活用を記載できればと思います。一つの整理として、「地域コミュニティの運営基盤の強化」の現状と課題の中で記載できればと思っています。

【委員】 区役所による支援を充実するということで、区役所は最前線で地域と向き合っているが、限定的に区役所だけで支援するのではなく、やはり行政全体で地域に向き合っていく必要があると思っている。

これからは地域にかかわる新しい仕組みづくりというか、もう一步進んだ福岡モデルのような支援を、企業や市の職員と、そして若い人たちも参加できる仕組みづくりのようなものも必要じゃないかなと思う。この中にもあるが、地域活動のインセンティブであったり、企業が参加しやすい環境づくりであったり、そういった仕組みを考えていく必要があるのではないかな。

そして、市の職員も、机上ではコミュニティの研修はしているが、まちづくりのワークショップとかにも実際に研修の一環で参加してもいいのではないかと、個人的には思っている。

【委員】 今、言われたことはできそうでできないけど、しないといけないことだと思う。課題解決型になると、高齢者支援と福祉と防災は、地域に入っていくと問題意識を持ってもらえるが、新しく保健福祉局や社会福祉協議会と一緒に事業をするという話などは、どうしても負担感が強い。それを払しょくするためには、ここに書いてあるような新しい方々とか企業などと一緒にやる必要がある。

現在、イベントをしたり夏祭りをしたり色々と工夫されているが、その先がない。そこで、何がインセンティブになるかという、それは対話の場しかないようだ。校区単位で子育て世代がいっぱい公民館に来て、話をしているわけだから、こういう人たちが一気に集まって対話をするとか、そういう場をつくらないと何も動かない、第一歩を踏み出そうとしたら、そういう具体的な仕組みが要るのではないかなと思う。自治協議会サミットのようなことを実施した後に、ちゃんとフォローアップできるようなものがないと、次につな

がらないなと感じている。

そのようなことが仕組みになるのか、あるいはモデル事業になるのかわからないが、校区に任せていても難しいので、誰かが仕掛けないといけないと感じている。どのように記載するのかはわからないが。

【委員】 個人商店だと、きるだけ地域で利用することによって、その従業員や店長と知り合いになって、防犯にしても、校区事業にしても協力する体制ができる。私たちの校区だと、個人商店は少なく、銀行や郵便局や駅などで連携という、校区の夏祭りや体育祭で、企業に仮装行列やリレーに出てもらったり、夏祭りにブースを出してもらったりしている。また、献血のお願いなどは、その都度、企業にお願いに行っている。そうすることによって今度は反対に、銀行から、暮れに餅つきをするので、10人程度手伝いをお願いしますと言われ、銀行の加勢に行ったりしている。そんなふうに献血などのイベントに対しては企業ともうまく機能できているが、地域を盛り上げていくための地域活動でという、地域外から通勤で来ている人がほとんどだから厳しい面がある。個人のところと企業とでは、地域が頭に入れて活動するときのあり方は違うと感じる。公民館等で開催する、高齢者や男女協などの講演などには、地域の医院の先生方に来ていただくとか、そういう努力はしているが、一般的に言う地域コミュニティの中で活動する人材の育成となると、厳しい面もあり、現状はそんな感じである。

【委員】 企業と手を組む仕組みづくりというのは、今言ったような地域にある企業じゃなくて、行政指導のもと、例えば自分の地域に平日でも何時間か休みをとって行く仕組みをつくりなさいと、そういったイメージで受け取ったが、そうではないのか。

【委員】 私は、どちらもあると思っている。

【委員】 その仕組みができればいいと思う。会社に行っている、平日の何時間かは、地域活動することができる。そういう仕組みだったら非常に有効だと思った。

【委員】 NPO的に言うと、お菓子屋さんの萬盛堂さんとかはケーキづくりや麺づくりを一緒にやりましょうと、西部ガスなども参加してやっているが、そこで途切れてしま

っている。せっかく来てくれたら、そこから次の話につながっていくような芽はあるように感じている。

それから、コミュニティスクールという言葉があるので、コミュニティカンパニーという形があってもいいのかなとつくづく思っている。地域にある事業所が何をやっているのか知らないので、企業に来てもらって話を聞きましょうといったら、意外に興味を持っている。そのような仕掛けが校区単位でできればいいが、その後押しが要るのかどうかというのが問題だろうと思う。何かインセンティブというか、企業にとってメリットを感じるところが必要のような気がしている。

【委員】 多分、企業にメリットがないとなかなか出てきにくいと思う。だから、地域の中の事業所であれば、例えば地域ポイントなどの考え方もあると思う。

もう一つ言えば、例えば、契約のとき地域活動に対してのポイントを利用するなど、そういうことを考えられないのかなと思う。

【委員】 10年前は、自治協だよりに整骨院や診療所を載せていたら怒られていたが、今はありがたがられている。民間を何で出すんだという話だったのが、今は、整骨院を出しても誰も文句を言わない。そういうふうに変わってきている。

例えばカフェなどで、整骨院の方に話をしてもらおうと、聞きたい人がたくさんいる。そうすると、これも企業にとってのメリットであり、そういう空気というか場はできてきたような気がする。

【委員】 率直な意見として、この中間まとめに関しては、よくまとまっていると思う反面、具体的なアイデアまで例として出すべきなのかわからないが、具体性がないように感じる。もしくは、ここに出されている対応の方向性のキーワードは、「インセンティブ」だったり「担い手」だったり、似たようなものがずっと出てくるので、問題の1本化を図ったほうがいい、それに関するアイデアなどをつくったほうがいいと思った。

担い手づくりに関しても、具体性に欠けるというのは、誰が担い手なのかというところで、若者層と呼ばれる人なのか、子育て層なのか、大学生なのか、中学生なのか、高校生なのか、それによっても多分、戦略が変わるというか、届ける方法が変わるんじゃないかと感じる場所もあり、もう一步踏み込んだものを何かしら出さないといけないと思った。

公民館という一つの議題は、地域にある拠点としてサロンの役割や、PTAとか自治会・町内会とか、各団体の拠点となり、それぞれをひもづけるような場所にはなると思うので、やはり一つのキーワードと考える。

それと、もう一つは、市の大きなイベントや事業で、地域をつなげていくような、連携させるようなことがあり得るのではないかと思います。例えば福岡マラソンは、各地域がマラソンコースに位置していたりする状況があったときに、地域同士関連して同じ物事を考え、同じ課題をどうやって解決するのかはわかりやすい議題になるのではないかと思います。

取りとめがないが、そういうことを考えた。

【委員】 私どもの校区だけではないと思うが、毎年、自治協あるいは各種団体の事業、同じようなことばかりをやっており、日々それに追われているようなところがある。今、何が問題だろうかとか、じゃあ何をやっていけばいいのだろうかとか、なかなかそんなところまではいかない状況。校区の担当職員がいるが、まちづくりのプロではないので、そういうところまで踏み込んでこない。

それぞれの校区らしいまちづくりのプログラムをつくるには、まちづくりの楽しいお話を聞かせるとか、やらないといけないという気持ちにさせてもらえるような講師を派遣してもらうことが必要と感じている。うちの校区は何が問題なのか、話し合いを続けていかないといけない、それぞれの校区のまちづくりプランをつくっていくということも含め、後押しできる人材派遣が必要。

楽しく、やる気を起こしてくれるような方を派遣していただくとありがたい。まちづくりって楽しいなと思わせてもらえるような。

【委員長】 中間とりまとめは公表されるのか。

【事務局】 そのとおりです。

【委員長】 市民からも、楽しそうだなと思ってもらえることも大事ではないかと思う。

【委員】 この報告書のターゲットは一般市民か。それとも、自治協か。表向きはみんなというところだろうが、こころをターゲットにするということは何か思っているのか。

【事務局】 行政としては、全ての市民が対象という形になりますが、この段階で、これに関して関心を持っていただける方は、やはり実際に活動している方になってくると思っています。

具体的な部分は、中間とりまとめの項目としてではなく、各委員のご意見もアイデアのような形で入れる方向で、できるだけ取り込みたいとは思っていますが、具体的な形では上げれていないというのが実情です。

【委員】 自治協議会ができて、運営基盤や検討課題などを考えたとき、ここにまとめであることを読むと、そうだなと思う。私はいつも地域活動の末端は町内会と思っている。ここに書いてあるようなもの一つでも取り組めば、末端の町内会がある程度活性し、そのまちは何か1個変わらと思う。

それをやるかやらないかは人材になるが、はっきり言って、見方を変えて、やり方を変えて、取り組もうという人がどのくらいいるかというところにかかってくると思う。

だから、新しいマンションに移ってきた人たちまで行く広報を町内レベルでやっているのかとか、みんなからいただいている町内会費をどんな形で総会の資料として町民に渡しているのかとか、そこのところまで考えないと、成功事例にはつながっていきにくいと思う。149校区あって、それぞれ世帯数が違ったり、規模が違ったり、住まいのあり方が違ったりするので、事例を出したから何でも同じようにできるわけじゃないというのははっきりしている。

だから、申しわけないが、町内を支えている町内会長や執行部の方に真剣にこれを読んでもらって、見るところ、やるところを変えてもらって、必要とするならばいろんなことをわかっている人を行政のほうからも派遣し、そこでアドバイスしていただくという形で、取り組んでいかないと、ただ文書だけで終わって何も進まない。

自治協議会も12年になるわけだから、公民館と地域住民とで校区事業で一つになっていき、そこに企業とどう連携できるか、町内会単位から上げていって、役員たちが真剣に取り組んで、世代交代していくしかないとは私は思っている。

そういうふうに関心を持って一生懸命やっても、なかなか100%にはならないが、そのところをはっきりやらないと、ただ文書に終わってしまうように思う。今日、これだけの人がいるから、区レベル、校区レベルで、各団体レベルで、これを生かせるよう

な何かをぼんと言っしてほしいなと思っている。

【委員】 これは完全に個人の意見だが、自治協だけではなく、社協においても、次から次へと新しい事業が入ってきている。個人的には、まちづくりというのは最低限度の事業でいいと思う。緩いまちづくりを個人的には望んでいる。私はボランティアだが、毎日毎日仕事に来ているような感じを受けることがある。誰でもできるような緩いまちづくりで、最低限のそんなまちづくりでいいような気がするが、やはり無理なのか。次々と新しいことをしないといけないのか。

【委員】 行政は言いにくいと思うが、やらなければならないではなくて、「やろうか」と、「やるか」と思うかどうかということを行っている。地域は正直に、きついんだったら、行政と話をして、違うやり方をするしかないと思う。

やらなければならないというものではないと捉えるのが結構難しい。そうとってしまうと、みんなに悲嘆感がある。楽しさどう結びつくかが難しいが、簡単に言うと、いろいろな人がかかわることしか手がないように思う。だから企業との連携の話をしているし、大学生との関わりの話もしている。仮に大学で、地域と何か一緒にやったら単位がもらえらななったら、世の中何か変わるような気がする。そういうところでまちづくりを考えられたらいいと思うので、きついときはきついと言われたほうがいいと思う。

【委員】 町内会費はとれないとか、新しくできたマンションは町内会に入ってくれないとか、そんな意見がたまに出る。行政と話したときに、住民登録で窓口に来られた方に、福岡市ではこんな町内会があつて、こうこうですと説明をしてくれたり、私たちが言うことによって協力もしてくれているが、引っ越してきて、自分の住まいに帰って役所から言われたけど、町内会に入るって誰に言うの、どうすればいいのという問題が常に出ている。そうなると、町内会に入ってくれないとかではなく、相手は入るすがわからないから、それは誰がどう言えばいいのかというところだと思う。

私はできるだけたくさん入っほしいから、町内会で総会資料をつくったら、総会資料を公民館で多目に印刷し、引っ越してこられた方に町内会費を払ってもらうためには、町内の総会資料を持っていき、うちの町内では町内会費をもらったらこんな事業をしていますと説明している。ワンルーム以外で、99%はできるだけ町内会に入ってもらう努力を

している。校区12町内の中でこのような話をすると、他の町内もそれをまねしてやっている。

だから、ほんとうに自分たちでできる緩い、自分たちの負担にならない程度のまちづくりでいいと思うが、今みたいに地域コミュニティや子どもの虐待や高齢者だとかと言われると、やはり何かできることをやらないといけないときつい部分もあるが、見方とか考え方を変えて、ちょっと小さな単位レベルで話し合っていたら、何かできるんじゃないかと思える気がしている。

こういう話をそれぞれの団体や町内でできれば、今回の中間とりまとめが活かされたのかなと思う。

【委員長】 この後はどんなふうに、今のご意見を反映するのか。

【事務局】 ご意見を踏まえ、少し修正させていただきたいと思っています。中間とりまとめ自体は3月末の今年度中につくり上げたいと思っています。もう一度検討委員会を開催するのは厳しいので、修正したものを委員長、副委員長にお諮りし、ご了承いただきたいと思っています。了承後は皆様方に配らせていただければと思っています。

議題「さらに検討が必要な事項・取組み（案）」について事務局より説明

【委員】 それこそ、先ほど話が出ていました地域と公民館との共働というのあわせて、検討していったらどうか。

【委員長】 では、「地域と公民館との連携」につきましても加えていただけるか。

【事務局】 今の取りまとめの中にも少し公民館の必要性を書いて、次回以降、検討する時間を設けていきたいと思っています。

【委員】 この取組みの中に、放課後の遊び場とか、こども未来局の関連が結構あり、局を超えた話がここに書いてあるので、そういうところの連携を話し合う機会があってもいいのではないかと思います。

— 了 —